

おかげさまで  
羽村市自然休暇村は  
開設30周年！  
記念イベント開催中！  
あそびに来てりん♪



公式 PR サイト  
ウェブマガジン「はむらぐらし」編集後記  
～記事に「ありがとう」  
という思いを込めて～

私の職場は青梅市にあります。仕事で青梅には詳しくなりましたが、生活している羽村市のことはほとんど知りませんでした。羽村市魅力発見市民記者の話聞いて「羽村に詳しくなれそう」と思ったのが参加した理由の1つです。実際、たくさんの魅力を知ることができ、自分なりに羽村市の魅力を発信するようになりました。

取材をしていると興味深い話を聞くことができます。小作のライブバー「パーパス」では、歌声喫茶のチラシをオーナーが自らポスティングし、近所のお客さんが来店するようになったそうです。月に1回、数か月に1回でも来てくれるお客さんを増やす方針でした。

もう1つの理由は、身近にある好きなものが長く続いてほしいからです。お母さんが作ってくれた味噌汁に「おいしい」とお礼を言うと、またおいしい味噌汁を作ってくれます。似たような感じで自分の好きな場所の良いところを取材し、長く続くよう感謝の気持ちと共に記事にしています。

羽村市はさまざまな魅力にあふれていて、暮らしやすさや子育てのしやすさにつながっています。この魅力を大勢の方に知っていただくため、シティプロモーションの取組みの1つとして、市民が「羽村市魅力発信市民記者」となり取材して書いた記事を、ウェブマガジン「はむらぐらし」に掲載し、発信しています。



▲市民記者「なるさん」



▲ライブバー「パーパス」



▲ナイトツアーでは動物の精悍な表情も見られる

さて、今回書いた「真夏の夜！動物たちの裏の顔『大人限定ナイトツアー』」から見た羽村市動物公園の記事が、羽村市公式PRサイト「はむらぐらし」で公開されました。私たちは、本業を抱えながら市民記者活動をしており、今回の記事も書き上げるのに半年かかりました。この記事には子どもに関する記述があり、昨年10月に妻が男児を出産したこともあって、私にとって思い入れのある少し特別なものとなりました。私たちのまちの動物公園の知られざる魅力を、ぜひ読んでみてください。

※羽村市魅力発信市民記者の記事は、市公式PRサイトの「はむらぐらし」で読むことができます。Facebookでは日頃の活動の様子を更



▲「はむらぐらし」QRコード

新しています。  
問合せ シティプロモーション推進課☎399



## 収藏品ファイル

その74

シリーズ 学校③

「謄写版(ガリ版)用具」

今回は、昭和時代の学校の先生の必需品を紹介します。

謄写版は孔版印刷の一種です。専用の原紙をヤスリ状の台に乗せ、鉄筆(先端が鉄の筆記具)で字や絵を描いて表面に細かな孔を開け、その孔からインクを通して印刷します。原紙を削る際のガリガリという音からガリ版とも呼ばれました。

単純な仕組みで大量印刷ができ、持ち運ぶこともできます。学校では昭和時代を通して、授業の教材などを作るのに活躍しました。

問合せ 郷土博物館☎558-2561



▲左が印刷に使う謄写機、右がインクやローラーなどの一式

